



看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究院附属

**看護実践・教育・研究
共創センター**

Collaborative Center for Development of Nursing Practice,
Education and Research

2021-2022



CHIBA
UNIVERSITY

センター長 ご挨拶



看護学研究院附属
看護実践・教育・研究共創
センター長
わずみ よしこ
和住 淑子

世界中が大きな変化の波に飲み込まれる中、当センターの事業も大きな見直しを迫られました。大きな変革のひとつが、従来の集合型の研修形態を見直し、参加者相互のピア・コンサルテーションを主体とした課題解決型研修へと大幅にリニューアルしたことです。この研修は、これまで当センターをご利用くださった全国の看護系大学教員、看護管理者、中堅看護師すべてを対象とし、オンラインで行うことといたします。この新しい研修は、当センターの中核事業である「“Society5.0 看護”創出拠点-ピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略-」と連動させ、デジタル化時代を見据えながら進めていくことにしております。

また、この方針転換に伴い、当センターが1982年に設置されて以来、40年近く慣れ親しんだ「看護実践研究指導センター」の名称を、新事業のコンセプトに即して、2021年度より、「看護実践・教育・研究共創センター」へと変更しました。

今回の出来事は、これまで当たり前と思ってやってきたことを見直す、よい機会であったと感じています。そして、『実践・教育・研究の良循環を通して、山積する社会的課題の解決に看護学の立場から貢献し、国民の健康の増進に資する』という当センターが大切にしてきたテーマは、一貫して変わらないことも再確認できました。

この時代の変革期に、当センターを利用してくださる皆様が相互に響き合いながら、看護の対象者・家族・スタッフ看護師・看護管理者・看護学生・看護教員・他職種・所属組織・地域それぞれの力を発見し、それらが最もよく発揮された調和的な状態を目指して、創造的な取り組みを続けていくことを支援する拠点でありたいと思っております。

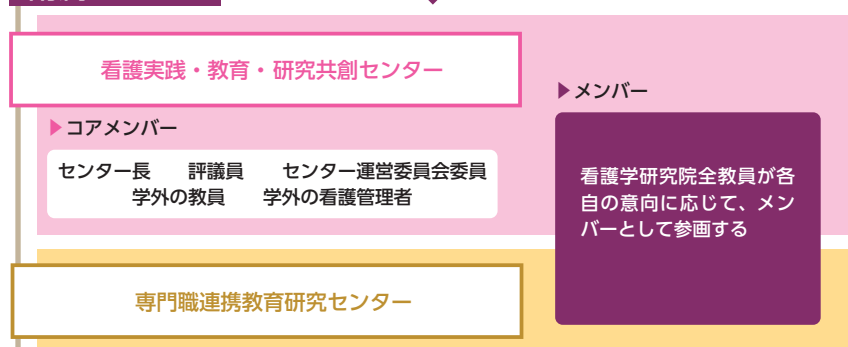
～千葉大学大学院 看護学研究院とのつながり～

令和3年4月より千葉大学大学院看護学研究院は、教育組織と教員組織を分離する組織改革を行いました。これにより、当センターにおいてもセンター固有の教員組織はなくなり、看護学研究院全教員が、教育・研究・社会貢献およびFD活動として、附属センター事業に参画するようになりました。「実践-教育-研究をつなぐ」というセンター理念のもと、事業にかかわる学内教員のすそ野を広げると共に、学内のみならず学外の教員・看護管理者の方にもコアメンバーとしてご活躍いただく体制となりました。多彩な方々との連携、協働を深めることで、今年度刷新しましたピア・コンサルテーションによる「課題解決型研修」において、個別課題に応じた専門性の高い支援教員の選択とマッチングを可能とし、質の高い教育支援の実現につなげて行きたいと思っております。

教員組織



附属センター



千葉大学大学院看護学研究院の多彩な教員が、コンサルテーションやアドバイザーとして活用可能となった新体制。学外の教員・看護管理者と共にセンター事業を運営、企画します。

センターの基本理念

実践－教育－研究をつなぐ

当センターは、1982年(昭和57年)、調査研究、専門的研修等を行うとともに、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者の利用に供することを目的として設置されました。センターの基本理念である『社会が期待する看護の価値の創造に向けて、実践－教育－研究をつなぎ、利用者との共創のもと、全国の看護系大学および地域の関連施設の機能の充実・発展をめざす』の実現を目指し、生涯学習支援を主体とした看護の向上に向けた事業を行っています。

センターの名称を変更しました！

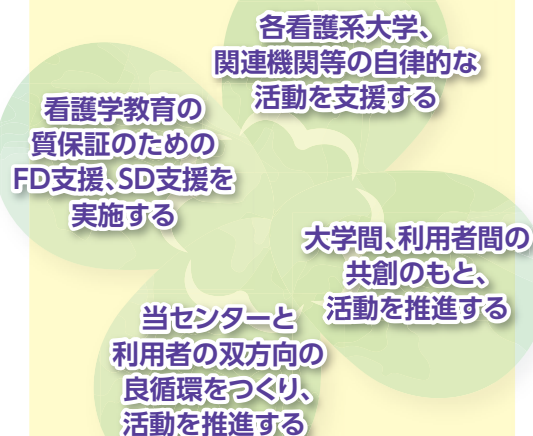
－『共創』に込めた思い－

「看護実践研究指導センター」として、39年間、皆様の温かいご支援のもと活動を継続して来ましたが、この度、センター名称を新たにしました。2021年4月より『看護実践・教育・研究共創センター』へ変わりました。

感染症がもたらした大きな社会変革、時代の変化に応じて、これまでの知識提供型の研修事業の在り方を抜本的に転換し、「利用者相互のピア・コンサルテーション」を軸に、新事業を展開してまいります。

ピア(peer)とは、同じような立場や境遇、経験等を共にする仲間を表し、教わる－指導する関係を排除して、目的を達成するためお互いの力を出し合って、看護の知を新たに創出し続けていこう、との思いが込められています。

センターの基本方針



センターリニューアルのコンセプト

時代の変化に即した
看護イノベーションの
創出に向けて

当センターでは、地域で人々の Life(生命・生活・人生)を支える自律的看護職を輩出するために、看護学教育の継続的質改善に取り組んでいます。



①看護系大学教員が見つめるエレメント

自己の立ち位置を多面的に見極めることができるように、視野に入れるべき要素と要素間の関係性、関係性の壮大な広がり の範囲を表しています。



②継続的質改善を実現する思考過程を螺旋的に歩む

すぐにどうしたらよいのかと解決策を考えるのではなく、この現状が過去の如何なる経緯の積み重ねによってつくりだされてきたのか、そのプロセスを振り返る。これを繰り返す中でありたい姿が見えてくるようになる。ピア・コンサルテーションが刺激する思考過程と繰り返しによる発展(螺旋)を表しています。

センター事業 ① 研修事業

FD支援

- 看護学教育ワークショップ
- 看護系大学教員向け課題解決型研修
- オンデマンド研修
- 看護系大学への個別支援

SD支援

- 看護管理者および中堅看護者向け課題解決型研修
- オンデマンド型研修

利用者は最先端の情報や課題を持ち寄り、当センターは必要なニーズを把握、事業の計画と運営を行います。特に課題解決型研修では目的を共有し、利害関係のない研修参加者がグループワークを通して、相互に刺激し支援し合うピア・コンサルテーションを展開します。当センターと利用者の双方向の良循環を作ると共に、利用者相互の関係構築・発展をファシリテートしています。

社会の変化に伴う
看護職への役割

看護系大学の急増に伴う実習
施設・教員の質的・量的不足

各大学が特徴を生かし学生
の多様性に対応して持続的
に機能するための自律的な
教育のCQIへの支援不足



生涯学習支援



生涯学習支援

地域の関連
医療・福祉
施設

共創

実践

機能の充実・発展

問題解決・組織変革

自組織・自身の潜

自組織の見

社会が其
看護の価値の
教育・研究・実

人々の健康
暮らし

センター事業 ② 情報発信・ネットワーク化

- 健康支援の質を左右する重要情報を蓄積し、看護実践・看護学教育の改善に活用可能なデータベースの構築
- センター研修を通じた人的ネットワークの構築を支援
- センターの実績、研究成果を利用可能な資源として発信

看護実践・教育・

センター事業 ③ 共同研究

- 研究1. 教員としての教育観とその背景にある組織のあり方を考える
看護学教員向けFDコンテンツの開発と評価
- 研究2. 看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究
- 研究3. 組織の現状を踏まえた研修企画を支援する方法の開発

AI, IOTが当たり前となる時代に、人間中心のテクノロジーを使いこなす新たな健康支援方略を解明

各施設(教育機関・医療機関)の課題解決の軌跡が可視化され、組織の改善や変革の方向性の見定めが可能となり、人間中心の社会実現を促進

急増する看護系大学の教育内容の改善効果により、社会ニーズに即した医療人材を育成

全国の
看護系大学

生涯学習支援

生涯学習支援

教育
研究

共創

機能の充実・発展

看護学研究共同利用拠点とは

令和3年7月現在、全国で14施設が文部科学大臣より「教育関係共同利用拠点(大学の職員の組織的な研修等の実施機関)」として認定されています。「看護学教育研究共同利用拠点」はそのうちのひとつであり、かつ、看護学分野としては唯一の拠点です。教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことが重要であることから創設されました。センターの事業計画と重要事項を審議するため、研究院長、センター長、外部の学識経験者等の委員で構成された「センター運営協議会」を年に1回開催しています。

研究共創センター

活用可能な情報・資料



当センターで実施した事業成果である各種コンテンツをホームページからダウンロードできるようにしています。下のQRコードから左のホームページ画面「活用可能な情報・資料一覧トップ」にアクセスしてご活用ください。

主なものの一部を下にお示ししています。

ご活用いただき、活用の成果をセンターと共有させていただきたいと考えています。



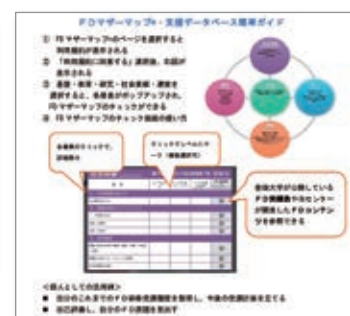
FD・教育活動 FDマザーマップ® Ver.3及び支援データベース

看護系大学教員に必要な能力のうち、特に看護に特化した能力を網羅的に示したもので、「基盤」「教育」「研究」「社会貢献」「運営」の要素からなります。組織としてFDの課題を見出す、体系的なFDに向けて整理する、個人の能力を各自が評価するためにも使えます。

使用してもらいながら、見直しを行い、現在、Ver.3を掲載しています。

FDマザーマップ®の特徴やさまざまな活用方法、FDコンテンツ、FD実績表を掲載しています。

FD実績表は、登録している看護系大学が実際に行ったFDの実績の記録を掲載しています。公開されている他大学のFDの企画は、自大学のFD企画のヒントになります。



FD・教育活動 FDコンテンツ

FD研修に活用できるコンテンツを各種掲載しています。看護学教育指導者研修での講義の動画もダウンロード可能です。



看護実践 組織変革型看護職育成支援データベース

国公立大学病院副看護部長研修における参加者の実施したプロジェクト実践報告書をデータベース化し、公開しています。この実践報告書は、執筆者の承諾を得て公開しており、多様な取り組みを検索することができます。

英文パンフレット



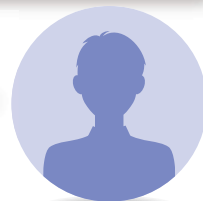
看護学教育ワークショップ 全プログラム参加者の声

令和2年度に当センターが実施した看護学教育ワークショップでは、「看護学教育におけるICT活用の可能性」をテーマに開催しました。新型コロナウイルスの影響により、初めてWeb開催によるワークショップとなりました。「講演のみ（Web配信）」と「全プログラム（講演+ZOOMによるグループワーク）」の2種類の参加方法で、たくさんの方にご参加いただきました。参加者の声をいくつか紹介します。



当初は難しいワークショップかと考えていましたが、夢が膨らむ感じで、とても楽しかったです。やはり教員はみんな疲れているんだなと感じました。私も、目先の事務的な業務にばかり目を向けないように、時々「前を見る」ことを忘れないようにしなければとおもいました。

他大学の状況を知ることで、自大学の強み、弱みなどを改めて理解することができました。また、他者の意見を聞くことにより、違う視点から、自己の課題を考えることができました。



私個人ができること、大学学部、大学全体でできること、大学間の連携によってできることが整理できました。ICTの活用を検討することで、大学教員同士話し合うことが増え、実習施設とも教育目標を共有しなから、よりよい看護学教育を進めていけることがメリットだと気づきました。全国各地でたくさんの努力や実践が行われていることに触れ、力をいただきました。他のグループの内容を共有していただけるとありがたいです。

たくさんのご意見をいただきありがとうございます。他のグループの内容についても共有できますよう、全プログラムにご参加くださいました皆様に看護学教育ワークショップ報告書を送付させていただきました。



【センターからの回答】

事業実績(平成22年度～令和2年度)

(単位：人)	北海道・東北 ブロック	関 東 ブロック	中 部 ブロック	関 西 ブロック	中国・四国 ブロック	九州・沖縄 ブロック
看護学教育指導者研修	49	133	58	38	43	47
看護学教育ワークショップ	82	178	117	91	109	84
国公立大学病院 副看護部長研修	25	70	48	23	27	36
看護管理者研修	88	370	119	106	91	128
FD 企画者研修	2	12	2	6	4	4
FD 企画者研修支援 データベース登録	4	13	5	8	9	6
看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	7	13	16	9	8	9

学内コアメンバー紹介(令和3年4月1日現在)

研究院長	地域創生看護学講座	教授	諏訪 さゆり
センター長	看護政策・管理学講座	教授	和住 淑子
高度実践看護学講座		教授	眞嶋 朋子
		助教	仲井 あや
高齢社会実践看護学講座		准教授	黒田 久美子
健康増進看護学講座		教授	池崎 澄江
文化看護学講座		准教授	斉藤 しのぶ
看護政策・管理学講座		教授	野地 有子
		准教授	銭 淑君
		講師	飯野 理恵
		講師	高木 夏恵

看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究院附属 看護実践・教育・研究共創センター



Collaborative Center for Development of
Nursing Practice, Education and Research

詳しくはホームページをご覧ください

センターURL <https://www.n.chiba-u.jp/center/>

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL 043-226-2464(千葉大学亥鼻地区事務部総務課総務第三係)

センターメール: kango-cqi@chiba-u.jp

